

透析患者の歯科治療

佐藤英明*1,2 近藤道人*2

平成 28 年 5 月 15 日/新潟県「第 58 回新潟透析医学会学術集会」

透析患者は様々な合併症を有し、QOL の維持向上に苦慮することが多い。なかでも、顎口腔領域に発現する種々の合併症は、患者の摂食・喫食障害をきたし、低栄養をもたらすほか、重篤な感染症を継発することがあるため、重要な観察項目と位置づける施設が増加している。

そこで今回、当科で行った透析患者 282 人におけるスクリーニング口腔診査の結果をもとに、透析患者特有の口腔環境である口腔乾燥、口腔粘膜炎、う蝕や歯周炎、口臭、口腔カンジタ症などの口腔合併症、またその口腔管理などについて報告した。

透析患者において最も多い合併症は味覚異常（低下）である。発現頻度としては約 70% であるが、患者自身の訴えに乏しく日常臨床で大きな問題となることは比較的少ない。透析患者の味覚障害の特徴としては、四基本味覚である塩味、酸味、甘味、苦味の検査を行ったところ、透析前では塩味、酸味、甘味、苦味のすべてで味覚閾値が高値であったが、透析後には一時的に閾値が下がる傾向にある。さらに腎移植により味覚障害が劇的に改善するとの報告からも、透析が味覚障害の発症に関わっている可能性が高いとされている。

治療としては、微量ミネラル補給飲料（テゾン®）の摂取が味覚閾値の改善を認めたとの報告がある一方、適切な血流量の確保やダイアライザの適切な選択、十分な透析時間などによる透析不足の解消を勧めている報告も散見される。また、唾液分泌量の減少に伴う味覚障害には、適切な口腔ケアと口腔内保湿が、味覚異

常を改善することがある。

次に多い合併症として口腔乾燥症があり、約 50% に認められた。透析患者は健常人に比して有意に唾液量が減少しており、1/4 から 1/5 程度となっている。唾液分泌量の低下により、口腔粘膜は乾燥し発赤をきたす。患者はこれらの状態を、ネバネバ感や灼熱感、ヒリヒリ感、痛みとして表現することがある。舌では舌乳頭が萎縮し、平滑舌や溝状舌といった症状が発現し、口角炎や口唇炎を合併することがある。また、唾液による抗菌性や自浄性が喪失することから、う蝕（う蝕）や歯周炎、口臭の増悪、口腔カンジタ症などに罹患しやすくなる。そして、唾液量の減少は、嚥下障害、構音障害、咀嚼障害をきたすほか、味覚の異常を訴えることもある。食塊形成や送り込みが困難となるため、摂食時に大量の飲水が必要となる。また、粘膜の痛みや刺激物摂取が困難となり食事内容に制限が生じることもある。透析がもたらす唾液腺の萎縮性変化のほか、血漿浸透圧の上昇や降圧薬、向精神薬などの薬物の副作用などが複合的に作用し発症すると考えられている。また、これらも腎移植により有意に改善傾向を示す。治療としては、保湿剤の使用や人工唾液の使用など対症療法が基本となる。

次に多い合併症として、歯や骨といった硬組織の異常が約 40% に認められた。原因としては、先ほど述べた口腔乾燥症による唾液の減少や腎性骨異常栄養症が考えられる。歯の変化として、歯の表面が欠けて茶色く変化するエナメル質の実質欠損、歯の神経・血管が通っている歯髓腔の狭窄・石灰化、う蝕の増加などであ

*1 日本歯科大学新潟病院口腔外科 *2 信楽園病院歯科口腔外科

る。骨の変化としては、歯槽硬線の消失、骨硬化症、線維性骨炎、顎骨骨髓炎の出現などである。透析患者の骨髓炎は易感染性の観点からも難治性で長期経過をたどることが多い。基本的には、血液透析導入後、早期に歯科かかりつけ医への受診を勧告し、以後定期的な専門的口腔ケアや、う蝕と歯周炎の定期診査を受けることが望ましい。骨髓炎はう蝕や歯周病を放置したことが原因で起こる顎骨の慢性炎症から発症することが多いため、早期の歯科治療が骨髓炎予防にもつながる。

日常的な自己管理としては、1日3回の食後のブラッシングが基本であるが、透析患者は時間的制約が多く、困難なことが多い。そこで、プラークは24時間から48時間かけて成熟し歯石に変化していくことから、1日1回は時間をかけた歯磨き（ブラッシング）

を行うように指導する。

上記以外の透析患者に関する問題点として抜歯がある。抜歯に関しては、抜歯を行うタイミング、抜歯後の出血、抜歯前後の投薬、点滴・採血のルート（シャント設置のため）、感染症（HBs抗原、HCV抗体、ワ氏）などそれぞれあるが、その中でも抜歯後の出血が大きな問題となる。抜歯を行うさいは、透析主治医に対診を行い患者の状態を把握し、非透析日に抜歯を行う。入院が可能な施設であれば入院下での抜歯を行う。抜歯操作は愛護的に行い、抜歯後出血の問題となる炎症組織や不良肉芽は可及的に搔爬を行う。術中適切な止血操作を行い、抜歯窩にはゼラチンスポンジや酸化セルロースなど止血剤を填塞し緊密な縫合を行う。以上の操作を適切に行えば、ほとんどの症例で大きなトラブルなく止血は可能である。

*

*

*